

近所づきあいが避難生活をささえてくれました

宮城県・看護師さんの話（その1）

【避難ひなんするとき、声かけの大切さ】

3月11日の地震発生後、津波が来る前に隣の一人暮らしのおばあちゃんを連れて、近所の小学校に避難しました。おばあちゃんは少し認知症があり、地震の後には津波がくることが、よく分かっていませんでした。

逃げている時に、「津波がガソリンスタンドの看板をこえた。高いところに逃にげろ！」という声を聞きました。

津波の状況を大声で伝えながら、避難をよびかけていた人がいたのです。津波が来るといっても、どの程度の高さか想像できていなかったなので、津波の状況を分かりやすく伝えてもらったことで、どのくらい危険なのかを知ることができました。近所にも、その声を聞いて避難を始めた人がいたようです。避難の時、車をいっぱい見たのを覚えています。

私は、隣の家のおばあちゃんしか連れて逃げることはできませんでしたが、区長さんは区域の全世帯に声をかけていました。



取材地：宮城県石巻市
協力：キャンパス石巻のみなさん
取材：「小さな親切」運動本部